

# ある日突然、襲ってくるもの

— 脳梗塞からの生還 —

## 第4回：退院

※三角波：時化した海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、船の舵が取れなくなる危険な状態を言う。

私が原田豊さんを存じ上げるきっかけとなったのは、1996年、英国ニューズダイジェスト誌の人物紹介欄に原田氏が登場されたときだった。原田氏は当時、日系鉄鋼メーカー欧州社長の任期を満了し、ロンドンでビジネス・コンサルタントとして、ビジネスを立ち上げたと述べておられ、一流会社から新たな飛躍をされた原田氏の姿が深く印象に残っている。今回は、2016年に脳梗塞を発症された原田氏がいかに病を克服してきたか、原田氏の人生の三角波をお聞きする、全5回シリーズ。

(センターピープル代表取締役 飯塚忠治)



原田豊さんプロフィール

山口県出身。1965年東京外語大卒業。趣味はミュージカル鑑賞と、愛犬と一緒に近所の公園を散歩すること。週末には奥様と近所にお住まいの一人娘のお嬢さんと一緒においしいワインを楽しむという、家庭を大切にされるジェントルマンである。

2016年12月29日の早朝、原田氏は突然、脳梗塞に襲われ救急車で病院へ。それからほぼ1年半が経過した。7カ月に及ぶ入院生活の後、現在は自宅でご家族の温かいサポートはもとより、医療関係者の協力や多くのご友人の励ましの中で、不自由になった身体の回復に向けリハビリに励んでおられる。2018年3月、春の陽光の中で少しずつ回復を実感し、明るい兆しを感じられている原田氏。そんな同氏に、奥様の美弥子さん、お嬢さんの智美さんと共にこの1年半余りを振り返り、脳梗塞、入院、そしてその後について、体験をお話しいただく。脳梗塞はそれなりの年齢になると誰にも発症する可能性がある疾患。原田氏は、ご自身の体験が読者の皆様のお役に立てばと、この対談を快諾してくださいました。



6月16日、ロンドンのレストラン「タカハシ」で。左から美弥子さん(奥様)、智美さん(お嬢さん)、原田さん、渡辺さん(歌人)、飯塚(筆者)

ビリに引き継がれ今に至っています。脳梗塞は時間が経つと段々とリハビリの成果が出にくくなるともいわれていますが、退院後、慣れた環境にいるせいか、室内を歩いたり、メールをチェックしたり、少しずつですが色々できることが増えてきています。

**飯塚** 予想とは反対に御自宅ですることが増えたようで、本当に良かったですね。

**智美さん** 退院直前、ドクターと言語療法士から、今後は柔らかい食事が、どうしても固形のもの食べなければ、ほんの少しだけにしてください、と耳を疑うような指導を受けました。それらは検査結果によって下された診断でしたが、食べることが大好きな父の「食べたい」という気持ちを優先したいと思っていました。

**飯塚** そのような指導は病院のデータに基づいたものだったと思います。それ自体は間違いではないのですが、そこから個としての人間、原田さん個人を見てほしいということですね。データには個性が反映されないとも言えそうですね。

**智美さん** ドクターの診断が悪いと言いたいわけではありません。退院後、自分たちの目の届かないところにいる患者の安全を確保するためには、仕方ない一面もあると思います。一方で、自己責任にはなりますが、データ上難しいと言われてもそれがすべてではなく、本人に強い思いがあれば、状況を覆すこともあると感じました。これは食事のみならず、快復に関しても、意志の力によるものが大きいということを実感しています。結局、母のチャレンジもあり、今はほぼ普通食に戻りました。

**飯塚** 日本語で言う「気」の力はデータには確かに現れません。物事がうまくいっているときはどんなに働いても元気がだし、そうでないときは、短い時間でも体が重く感じられますよね。

**原田さん** 入院患者主催のピクニックに30名近くの方にお越しいただいたり、病院まで迎えに来てもらい、ポート・パーティーに参加したりと、入院中も様々なチャレンジをしてきました。最近では、近くの公園やパブにも行きました。夏には愛犬を連れて国内旅行にも行きたいですし、仕事もまだやり残したことがあるので、いつか復帰したいと考えています。そして、皆さんの前で今回の経験をお話してきたいいなねと家族とも話しています。

**智美さん** 父の脳梗塞をきっかけに、ある日突然生活が一変、とにかく無我夢中でしたが、数えきれないくらい多くの方々に支えられてここまで来ました。健康や病気予防は大切ですが、それ以上に、過去に執着するのではなく、「今ここ」に向き合う重要性を学んだ1年でした。私たちは、まだまだやりたいことがたくさんあります。父にやりたいという気持ちがある限り、一步一步チャレンジしていきたいです。

### ご友人からのお見舞いの短歌

心強く病ひと戦ひ来し君の  
命かがやく春となりけり  
(歌人 渡辺幸一さん)

※ 原田さんは回復途中で言葉が話すことがまだ自由ではありませんので、対談中は美弥子さん、智美さんにお手伝いいただいています。

本コラムの過去記事は、下記アドレスでご参照いただけます  
[www.centrepeople.com/japanese/article](http://www.centrepeople.com/japanese/article)



**飯塚** 7カ月に及ぶ入院、待ちに待った退院でしたね。

**原田さん** いや正直、退院日へのカウント・ダウンは気の重いものでした。私自身はまだ病院で集中的にリハビリを行っていたのですが、リハビリ病院の入院期間は基本的に12週間ということで、退院日が決められました。

**飯塚** そうですか。それで退院された後は？

**原田さん** 退院後は、自宅の生活に慣れるために介護スタッフが派遣され、その後セラピスト・チームによるリハ